

01.10.2004

日本特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 9月30日
Date of Application:

出願番号 特願2003-341541
Application Number:
[ST. 10/C] : [JP 2003-341541]

出願人 三菱マテリアル株式会社
Applicant(s):

REC'D 26 NOV 2004

WIPO PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年11月11日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川

洋

BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願
【整理番号】 3326103930
【提出日】 平成15年 9月30日
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【国際特許分類】 F01L 3/02
【発明者】
【住所又は居所】 新潟県新潟市小金町3丁目1番1号 三菱マテリアル株式会社新潟製作所内
【氏名】 森本 耕一郎
【発明者】
【住所又は居所】 新潟県新潟市小金町3丁目1番1号 三菱マテリアル株式会社新潟製作所内
【氏名】 花田 久仁夫
【発明者】
【住所又は居所】 新潟県新潟市小金町3丁目1番1号 三菱マテリアル株式会社新潟製作所内
【氏名】 西田 隆志
【発明者】
【住所又は居所】 新潟県新潟市小金町3丁目1番1号 三菱マテリアル株式会社新潟製作所内
【氏名】 坂井 智宏
【特許出願人】
【識別番号】 000006264
【氏名又は名称】 三菱マテリアル株式会社
【代理人】
【識別番号】 100080089
【弁理士】
【氏名又は名称】 牛木 譲
【電話番号】 03-3500-1720
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 010870
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9704489

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部に設けられるバルブシート本体の表面にメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用バルブシート。

【請求項 2】

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部に設けられるバルブシート本体の少なくとも前記組付け受け部に対向する表面にメッキ層を設けたことを特徴とするエンジン用バルブシート。

【請求項 3】

前記メッキ層の標準電極電位は、前記バルブシート本体の電極電位と前記組付け受け部の電極電位との間に配置されることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のエンジン用バルブシート。

【請求項 4】

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の表面にメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用シリンドヘッド。

【請求項 5】

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の前記バルブシートに対向する表面にメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用シリンドヘッド。

【請求項 6】

前記メッキ層の標準電極電位は、前記バルブシートの電極電位と前記組付け受け部の電極電位との間に配置されることを特徴とする請求項 4 又は 5 記載のエンジン用シリンドヘッド。

【請求項 7】

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の表面と前記バルブシートの表面にそれぞれメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用シリンドヘッド。

【請求項 8】

シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の前記バルブシートに対向する表面にメッキ層を形成すると共に、前記バルブシートの前記組付け受け部に対向する表面にメッキ層を形成することを特徴とするエンジン用シリンドヘッド。

【請求項 9】

前記組付け受け部のメッキ層の材質と前記バルブシートのメッキ層の材質は、電極電位が同じかほぼ同じ、或いはアルミニウム系の前記シリンドヘッドの電極電位、前記組付け受け部のメッキ層の電極電位、前記バルブシートのメッキ層の電極電位、鉄系の前記バルブシートの電極電位順に増加するように設けることを特徴とする請求項 7 又は 8 記載のエンジン用シリンドヘッド。

...

【書類名】明細書

【発明の名称】エンジン用バルブシート及びエンジン用シリンダヘッド

【技術分野】

【0001】

本発明は、エンジン用バルブシート及びエンジン用シリンダヘッドに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のものとして鉄基焼結合金からなるバルブシートの表面に Fe_3O_4 を主成分とする酸化鉄膜を形成することにより耐摩耗性が向上し、さらに相手攻撃性を減少させることができるので、ディーゼルエンジン、LPGエンジンなどのように燃焼生成物が発生しにくい高出力内燃機関の特に吸気用バルブシートとして対応することができものが公知である。

【0003】

また、1次焼結した焼結合金に溶浸処理を施した後にはほぼ完成寸法まで加工した後、酸化処理してバルブシートが得られることによって、溶浸メッキ層による熱伝導性の向上と、バルブ当接面の酸化被膜による耐摩耗性の向上を得られるLPG機関や水素機関に対応できるものも公知である。

【0004】

さらに、プレス成形され焼結された後、所定寸法に加工された焼結合金製バルブシートをシリンダヘッドに組付けた後に、水蒸気処理を施し酸化被膜を形成してなるLPG機関、水素機関或いは高鉛ガソリン機関や排気ガス再循環装置（E.G.R.）に対応できるものも公知である。

【特許文献1】特開平7-133705公報（段落0012）

【特許文献2】特開昭58-77114号公報（第1，3頁）

【特許文献3】特開昭58-77116号公報（第1，2頁）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

近年排気ガスが比較的清浄であるアルコールを主成分としたエンジン用燃料が普及している。このような燃料を空気と共に吸気口を介して燃焼室内に導入し、そして吸気口に設けた吸気用バルブシートを吸気用バルブで閉じた後に燃料を燃焼して動力を得る。その後排気口に設けた排気用バルブシートを排気用バルブで開いて排気ガスを排出する。

【0006】

ところで、前記アルコールを主成分としたエンジン用燃料においては、従来のガソリンや軽油に比較して水分が比較的多量に含まれていることがあり、このためアルコールを主成分としたエンジン用燃料が空気と共に吸気用バルブシートを備えた吸気口を介してシリンダー内に導入する際に、吸気用バルブシートとこのバルブシートを組付けるシリンダヘッドの組付け受け部との隙間に水分が浸入するおそれがある。このようにして吸気用バルブシートとその組付け受け部との隙間に水分が介在すると、吸気用バルブシートとその組付け受け部とが異種金属、例えば吸気用バルブシートが鉄系金属、組付け受け部ひいてはシリンダヘッドがアルミニウム系金属であるような異種金属接触の場合にはガルバニ腐食が生ずるおそれがある。すなわち、前記ガルバニ腐食は異種金属が接触してその間に水分があると電気が発生して、マイナス側の金属は腐食するというものであり、アルミニウムと鉄ではアルミニウム側がマイナス側となって腐食が生ずる。この結果、例えばシリンダヘッドに組付け受け部から冷却水路に通じる孔が腐食によって形成されるようなことが懸念される。

【0007】

しかしながら、前記従来技術においては耐摩耗性等を向上するためにバルブシートに酸化鉄膜等を形成したものであったが、アルコールを主成分としたエンジン用燃料を用いる

エンジンに生ずるガルバニ腐食を阻止できるようなものではなかった。

【0008】

解決しようとする問題点は、吸気用又は排気用バルブシートとその組付け受け部とがガルバニ腐食を生じやすい異種金属の組み合せであっても、ガルバニ腐食を阻止できるエンジン用バルブシート及びエンジン用シリンドヘッドを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

請求項1の発明は、シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部に設けられるバルブシート本体の表面にメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用バルブシートである。

【0010】

請求項2の発明は、シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部に設けられるバルブシート本体の少なくとも前記組付け受け部に対向する表面にメッキ層を設けたことを特徴とするエンジン用バルブシートである。

【0011】

請求項3の発明は、請求項1又は2記載のエンジン用バルブシートにおいて、前記メッキ層の電極電位は、前記バルブシート本体の電極電位と前記組付け受け部の標準電極電位との間に配置されるものである。

【0012】

請求項4の発明は、シリンドヘッドの吸気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の表面にメッキ層を形成したことを特徴とするシリンドヘッドである。

【0013】

請求項5の発明は、シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の前記バルブシートに対向する表面にメッキ層を形成したことを特徴とするシリンドヘッドである。

【0014】

請求項6の発明は、請求項4又は5記載のエンジン用シリンドヘッドにおいて、前記メッキ層の標準電極電位は、前記バルブシートの標準電極電位と前記組付け受け部の電極電位との間に配置されるものである。

【0015】

請求項7の発明は、シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の表面と前記バルブシートの表面にそれぞれメッキ層を形成したことを特徴とするエンジン用シリンドヘッドである。

【0016】

請求項8の発明は、シリンドヘッドの吸気口又は排気口に設けた組付け受け部にバルブシートを設けたシリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部の前記バルブシートに対向する表面にメッキ層を形成すると共に、前記バルブシートの前記組付け受け部に対向する表面にメッキ層を形成することを特徴とするエンジン用シリンドヘッドである。

【0017】

請求項9の発明は、請求項7又は8記載のエンジン用シリンドヘッドにおいて、前記組付け受け部のメッキ層の材質と前記バルブシートのメッキ層の材質は、電極電位が同じかほぼ同じ、或いはアルミニウム系の前記シリンドヘッドの電極電位、前記組付け受け部のメッキ層の電極電位、前記バルブシートのメッキ層の電極電位、鉄系の前記バルブシートの電極電位順に増加するように設けることを特徴とするものである。

【発明の効果】

【0018】

請求項1の発明によれば、バルブシート本体の表面に設けたメッキ層により、シリンドヘッドの組付け受け部とバルブシート本体との間にメッキ層が介在するので、水を介しての組付け受け部とバルブシート本体との電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止すること

ができる。

【0019】

請求項2の発明によれば、バルブシート本体の少なくとも組付け受け部に対向する表面に設けられたメッキ層により、シリンドヘッドの組付け受け部とバルブシート本体とが接触する可能性のある面にメッキ層が設けられ、組付け受け部とバルブシート本体との電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0020】

請求項3の発明によれば、バルブシートに設けられたメッキ層により、メッキ層と組付け受け部間の電位差を可及的に減少することができる。

【0021】

請求項4の発明によれば、組付け受け部の表面にメッキ層を形成したので、シリンドヘッドの組付け受け部とバルブシート本体との間にメッキ層が介在し、水を介して組付け受け部とバルブシート本体との電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0022】

請求項5の発明によれば、組付け受け部の前記バルブシートに対向する表面にメッキ層を形成したので、シリンドヘッドの組付け受け部とバルブシートとが接触する可能性のある面にメッキ層が設けられ、組付け受け部とバルブシートとの電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0023】

請求項6の発明によれば、メッキ層とバルブシート間の電位差を可及的に減少することができる。

【0024】

請求項7の発明によれば、シリンドヘッドの組付け受け部とバルブシートにそれぞれメッキ層が介在し、水を介して組付け受け部とバルブシート本体との電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0025】

請求項8の発明によれば、組付け受け部とバルブシートにはそれぞれ対向する表面にメッキ層を形成したので、組付け受け部とバルブシート本体との電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0026】

請求項9の発明によれば、組付け受け部とバルブシートにそれぞれ設けられたメッキ層は、同一又は同類の材質或いはアルミニウム系の前記シリンドヘッドの電極電位、前記組付け受け部のメッキ層の電極電位、前記バルブシートのメッキ層の電極電位、鉄系の前記バルブシートの電極電位の順に増加するように設けるので、組付け受け部のメッキ層とバルブシートのメッキ層間の電位差を可及的に減少することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0027】

本発明における好適な実施の形態について、添付図面を参照して説明する。尚、以下に説明する実施の形態は、特許請求の範囲に記載された本発明の内容を限定するものではない。また、以下に説明される構成の全てが、本発明の必須要件であるとは限らない。例えば実施例では吸気口の場合を示したが排気口の組付け受け部と排気用バルブシートでもよい。

【実施例1】

【0028】

図1～図3は第1実施例を示しており、図示しないピストンが往復動するシリンド1に固定するシリンドヘッド2は、アルミニウム合金製であって、その一側に吸気ポート3を設けると共に他側に排気ポート4を設けている。そして、吸気ポート3における燃焼室5に臨む吸気口6に吸気用バルブシート7を設けると共に、この吸気用バルブシート7を吸気用バルブ8が開閉するようになっている。同様に、排気ポート4における燃焼室5に臨む排気口9に排気用バルブシート10を設けると共に、この排気バルブシート10を排気用バ

ルブ11が開閉するようになっている。さらに、シリンダヘッド2には冷却水路12が吸気ポート3と排気ポート4との間に設けられている。

【0029】

前記吸気口6には吸気用バルブシート7の組付け受け部13が設けられる。この組付け受け部13は吸気ポート3の直径よりやや大径となるように凹段状に形成しており、この組付け受け部13に吸気用バルブシート7が嵌着している。

【0030】

鉄系の前記吸気用バルブシート7は、外径が組付け受け部13と同径で内径が吸気ポート3と同径なリング状であって、鉄基焼結合金からなる。そして、吸気用バルブシート7における前記組付け受け部13との対向面は、メッキ層14で被覆されている。メッキ層14の標準電極電位は、後述するバルブシート本体17の電極電位と前記組付け受け部13の電極電位との間に配置される。すなわち、電極電位とは、電極と、電極をひたした溶液或いは電解質間存在する電圧であり、通常は水素電極のような標準電極と比較される。図3は金属の標準電極電圧を示している。アルミニウム合金製シリンダヘッド2の標準電極電位(E_H)は、アルミニウムの標準電極電位(E_H)が-1.337Vであるのでほぼ-1.3V程度であり、一方鉄系バルブシート本体17の標準電極電位は-0.42V程度であるので、メッキ層14としては、標準電極電位が組付け受け部13とほぼ同じになるアルミニウム又はアルミニウム合金や、標準電極電位が中間に配置されるZn(標準電極電位-0.76V程度)やCr(標準電極電位-0.56V程度)、或いはAl-Zn, Cr系複合メッキ、Zn系複合メッキが好ましい。尚、Cr系複合メッキは、金属メッキ膜中にAl₂O₃等のセラミック粒子やPTFE(4フッ化エチレン)等の樹脂粒子を分散させたメッキであり、耐食性と耐摩耗性を兼ね備えているものである。そしてその厚みは50オングストローム～100μm、好ましくは1～100μmであって、吸気用バルブシート7の外周面に設けられる外周部14aと、吸気ポート3側に位置する当接部14bの他に、組付け受け部13側の角に形成した面取り角部14cに形成されている。尚、吸気用バルブシート7における燃焼室5に臨む面は吸気バルブ8を軸芯としたテーパ面となってシート面15に形成されており、このシート面15にはメッキ層14は形成されておらず、また内周面16にはメッキ層14を設けてもよく、或いは設けなくともよい。

【0031】

次に吸気用バルブシートの製造方法及び取り付け方法について説明する。吸気用バルブシート7は、Fe粉末に、Fe-Si粉末、Ni粉末、Co粉末、Mo粉末、Fe-W粉末、Fe-Cr粉末、Cu粉末、Fe-Nb粉末、Fe-V粉末およびC粉末の全部又は一部を十分に混合し、得られた混合粉末を金型圧粉成形し、得られた金型圧粉成形体を通常の条件で焼結し、配合組成と実質的に同じ成分組成を有するバルブシート本体17を作製する。

【0032】

さらに、これらバルブシート本体17の外周部14a、当接部14b、面取り角部14cにメッキ層14を形成する。次に吸気用バルブシート7をシリンダヘッド2に組付ける。この組付けは、組付け受け部13に吸気用バルブシート7を圧入、焼きばめ或いは冷しばめによって組付ける。次に組付けた吸気用バルブシート7のシート面15に吸気用バルブ8が密着するようにシート面15を機械加工する。

【0033】

次に前記構成についてその作用を説明する。水分が比較的多量に含まれていることがありアルコールを主成分としたエンジン用燃料が空気と共に吸気ポートを通してシリンダーハウジング1内に導入する際に、水分が吸気用バルブシート7と組付け受け部13との隙間sに侵入して水が溜まると、該水を介してシリンダヘッド2と吸気用バルブシート7が接触し、この結果異種金属接触が生じてガルバニ腐食が生ずるおそれがある。しかしながら、吸気用バルブシート本体17における組付け受け部13側の表面には、シリンダヘッド2の材質と同一又は同類の材質かならるメッキ層14が形成されているので、ガルバニ腐食の発生を抑止することができる。

【0034】

以上のように、前記実施例においては、アルミニウム合金製シリンダヘッド2の吸気口6に設けた組付け受け部13に設けられる鉄系バルブシート本体17の表面にメッキ層14を形成したことにより、シリンダヘッド2とバルブシート本体17との間にメッキ層14が介在するので、水を介して組付け受け部13とバルブシート本体17との異種金属の電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0035】

また、メッキ層14をバルブシート本体の少なくとも前記組付け受け部13に対向する表面に設けたことにより、組付け受け部13とバルブシート本体17とが接触する可能性のある面にメッキ層14が設けられ、組付け受け部13とバルブシート本体17との異種金属の電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0036】

しかも、バルブシート本体17に設けられたメッキ層14の電極電位は、前記組付け受け部13の電極電位とほぼ同じか又は前記バルブシート本体17の電極電位と前記組付け受け部13の電極電位との間に配置されるものであり、メッキ層14と組付け受け部13間の電位差を可及的に減少することができる。

【実施例2】

【0037】

図3～図4は第2実施例を示しており、前記第1実施例と同一部分には同一符号を付し、その詳細な説明を省略する。シリンダヘッド2に設けられる吸気口6には吸気用バルブシート21の組付け受け部22が設けられ、この組付け受け部22に吸気用バルブシート21が嵌着している。前記吸気用バルブシート21は、鉄基焼結合金からなり、外径が組付け受け部22と同径で内径が吸気ポート3と同径なリング状である。

【0038】

そして、組付け受け部22にメッキ層23を設ける。このメッキ層23は、吸気用バルブシート21との対向面、すなわち内周面部23aと底面部23bに設けられるものである。メッキ層23の電極電位は、バルブシート21の電極電位と前記組付け受け部22の電極電位との間に配置される。すなわち、アルミニウム合金製シリンダヘッド2の標準電極電位(E_H)は、-1.3V程度であり、一方鉄系バルブシート21の標準電極電位は-0.42V程度であるので、メッキ層23としては、標準電極電位が中間に配置されるZn(標準電極電位-0.76V程度)やCr(標準電極電位-0.56V程度)、或いはAl-Zn, Cr系複合メッキ、Zn系複合メッキが好ましい。

【0039】

したがって、水分が比較的多量に含まれていることがありアルコールを主成分としたエンジン用燃料が空気と共に吸気ポートを通してシリンダー1内に導入する際に、水分が吸気用バルブシート7と組付け受け部13との隙間sに侵入して水が溜まると、該水を介してシリンダヘッド2と吸気用バルブシート7が接触し、この結果異種金属接触が生じてガルバニ腐食が生ずるおそれがある。しかしながら、組付け受け部22の表面には電位差を減少するメッキ層23が形成されているので、ガルバニ腐食の発生を抑止することができる。

【0040】

以上のように、前記実施例においては、アルミニウム合金製シリンダヘッド2の吸気口6に設けた組付け受け部13にメッキ層23を設け、そしてメッキ層23を介してバルブシート21を設けたので、シリンダヘッド2とバルブシート21との間にメッキ層23が介在し、組付け受け部22とバルブシート21との異種金属の電位差を減少し、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0041】

また、メッキ層23を組付け受け部22におけるバルブシート21に対向する表面に設けたことにより、組付け受け部22とバルブシート21とが接触する可能性のある面にメッキ層23が設けられ、組付け受け部22とバルブシート21との異種金属の電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0042】

しかも、バルブシート21に設けられたメッキ層23の標準電極電位は、前記バルブシート21の電極電位と前記組付け受け部22の電極電位との間に配置されることにより、メッキ層23と組付け受け部22間の電位差を可及的に減少することができる。

【実施例3】

【0043】

図7～図8は第3実施例を示しており、前記第1実施例と同一部分には同一符号を付し、その詳細な説明を省略する。シリンダヘッド2に設けられる吸気口6には吸気用バルブシート31の組付け受け部32が設けられ、この組付け受け部32に吸気用バルブシート31が嵌着している。前記吸気用バルブシート31は、鉄基焼結合金からなり、外径が組付け受け部22と同径で内径が吸気ポート3と同径なリング状である。

【0044】

そして、バルブシート31における組付け受け部32との対向面と、組付け受け部32におけるバルブシート31との対向面に、それぞれメッキ層33, 34を設ける。メッキ層33は吸気用バルブシート31の外周面に設けられる外周部33aと、吸気ポート3側に位置する当接部33bの他に、組付け受け部32側の角に形成した面取り角部33cに形成されている。メッキ層34は、吸気用バルブシート31との対向面、すなわち内周面部34aと底面部34bに設けられるものであって、メッキ層33, 34の材質は、電極電位が同じかほぼ同じになるように同一又は同類の材質である。また、メッキ層33, 34の材質は、アルミニウム合金の前記シリンダヘッド2の電極電位(-1.33V)、前記組付け受け部34のZnによるメッキ層34の電極電位(-0.76V)、前記バルブシート33のCrによるメッキ層33の電極電位(-0.56V)、鉄系の前記バルブシート33の電極電位(-0.42V)の順に増加するよう設ける。

【0045】

したがって、水分が比較的多量に含まれていることがありアルコールを主成分としたエンジン用燃料が空気と共に吸気ポートを通ってシリンダー1内に導入する際に、水分が吸気用バルブシート31と組付け受け部33との隙間sに侵入して水が溜まると、該水を介してシリンダヘッド2と吸気用バルブシート31が接触し、この結果異種金属接触が生じてガルバニ腐食が生ずるおそれがある。しかしながら、組付け受け部32の表面には電位差を減少するメッキ層33, 34が形成されているので、ガルバニ腐食の発生を抑止することができる。

【0046】

以上のように、前記実施例においては、バルブシート31と組付け受け部32にそれぞれメッキ層33, 34を設けたので、シリンダヘッド2とバルブシート31との間にメッキ層33, 34が介在し、組付け受け部32とバルブシート31との異種金属の電位差を減少し、ガルバニ腐食を阻止することができる。

【0047】

しかも、メッキ層33, 34は、同一又は同類の材質やアルミニウム系の前記シリンダヘッドの電極電位、前記組付け受け部のメッキ層の電極電位、前記バルブシートのメッキ層の電極電位、鉄系の前記バルブシートの電極電位順に増加するよう設けるので、メッキ層33, 34間の電位差を可及的に減少することができる。

【産業上の利用可能性】

【0048】

以上のように本発明にかかるバルブシートは、水分が比較的多いエンジン用燃料などの用途にも適用できる。

【図面の簡単な説明】

【0049】

【図1】本発明の第1実施例を示す断面図である。

【図2】本発明の第1実施例を示す要部の断面図である。

【図3】本発明の第1実施例を示す標準電極電位の説明図である。

【図4】本発明の第2実施例を示す断面図である。

【図5】本発明の第3実施例を示す要部の断面図である。

【図6】本発明の第3実施例を示す断面図である。

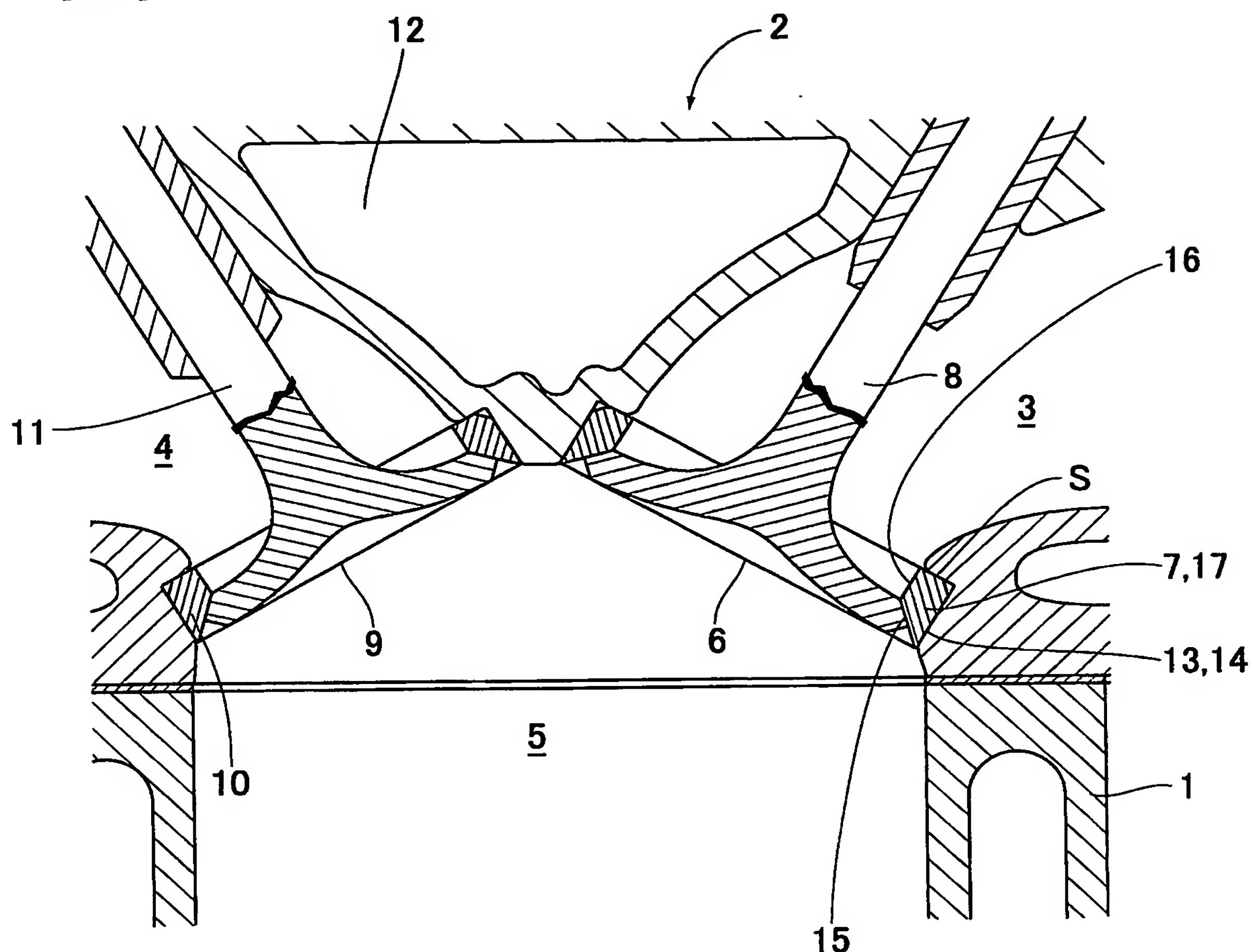
【図7】本発明の第3実施例を示す分解状態の断面図である。

【符号の説明】

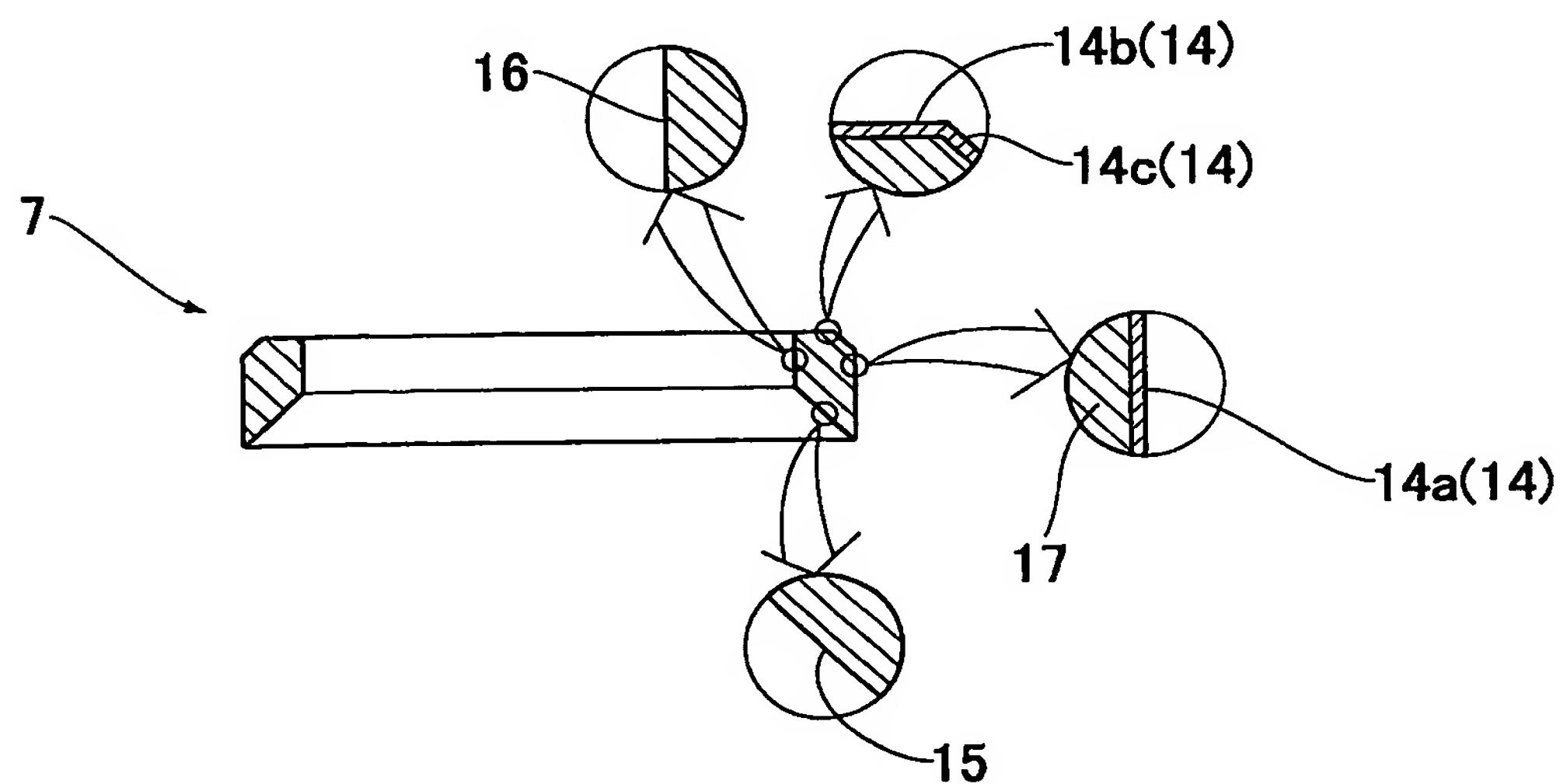
【0050】

- 2 シリンダヘッド
- 6 吸気口
- 13 22 32組付け受け部
- 14 23 33 34 メッキ層
- 17 バルブシート本体
- 21 31 バルブシート

【書類名】図面
【図1】



【図2】

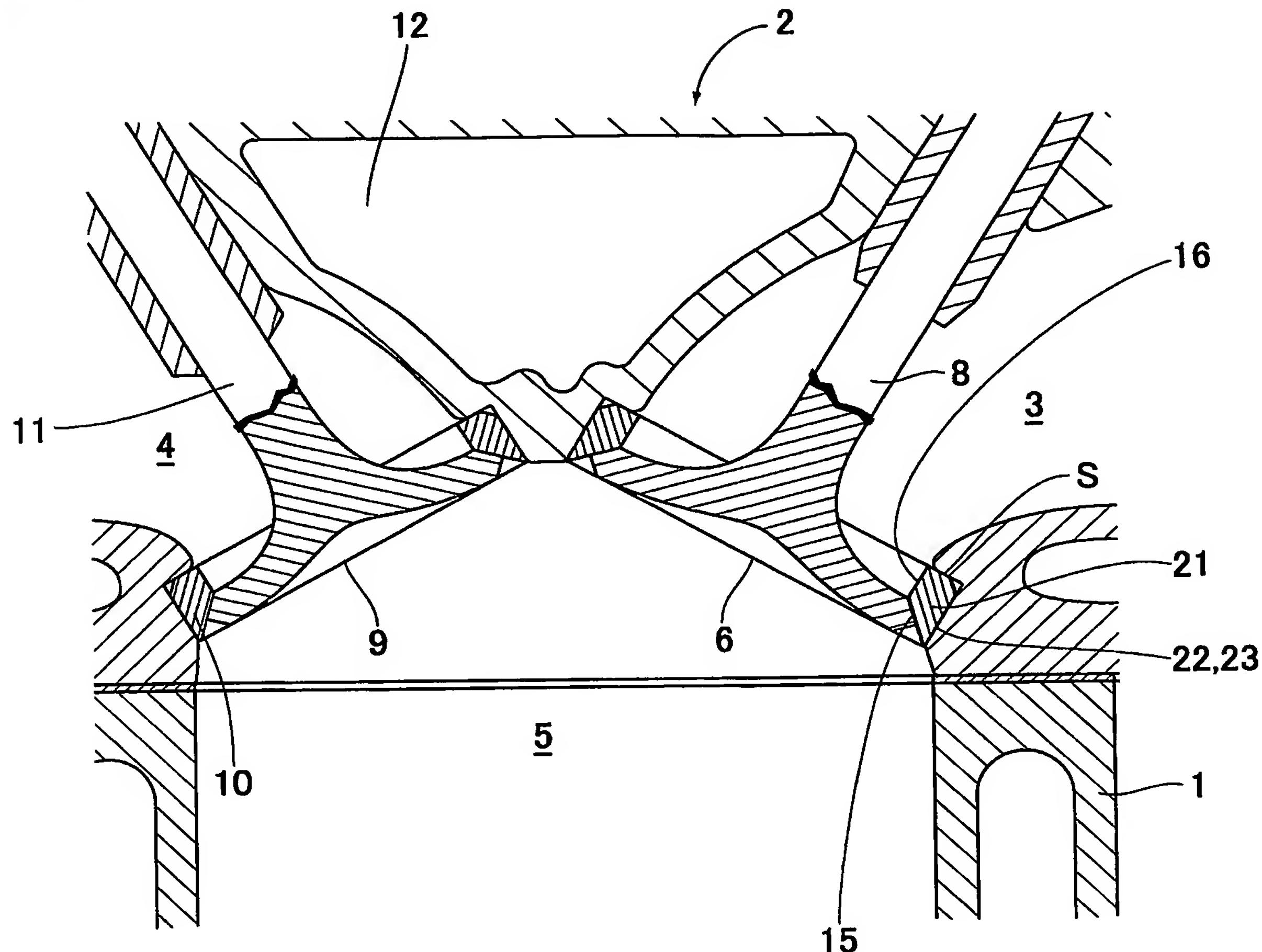


【図3】

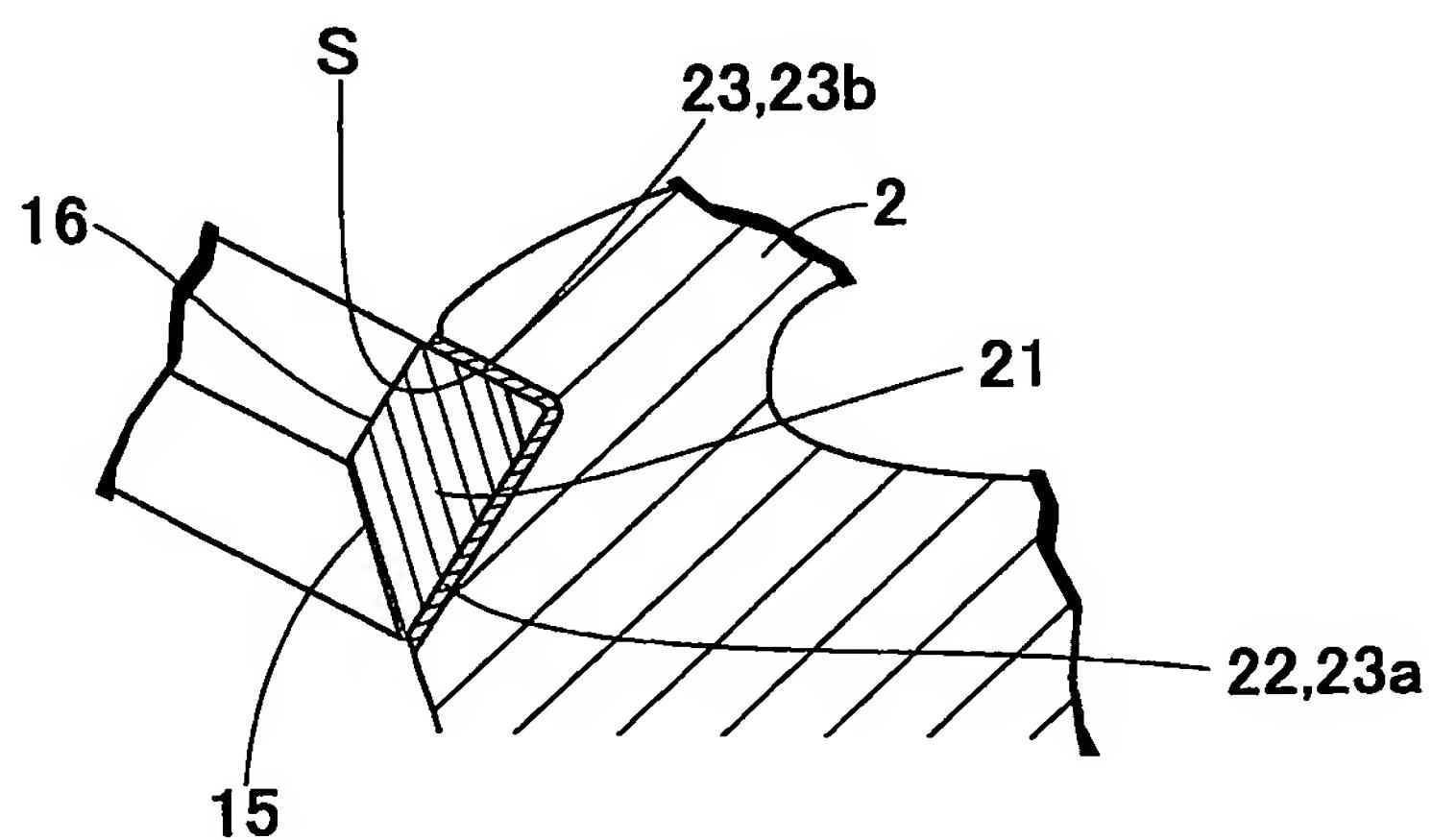
金属の標準電極電位

金属	イオン	E_H (V)
K	K^+	-2.922
Na	Na^{++}	-2.713
Be	Be^{++}	-1.69
Mg	Mg^{++}	-1.55
Al	Al^{++}	-1.337
Mn	Mn^{++}	-1.000
Zn	Zn^{++}	-0.762
Cr	Cr^{++}	-0.560
Fe	Fe^{++}	-0.426
Cd	Cd^{++}	-0.397
Co	Co^{++}	-0.278
Ni	Ni^{++}	-0.248
Sn	Sn^{++}	-0.146
Pb	Pb^{++}	-0.132
水素	H^+	0.000
Cu	Cu^{++}	0.345
Hg	Hg^{++}	0.792
Ag	Ag^+	0.799
Pb	Pb^{++}	0.820
Pt	Pt^{++++}	0.860
Au	Au^+	1.500

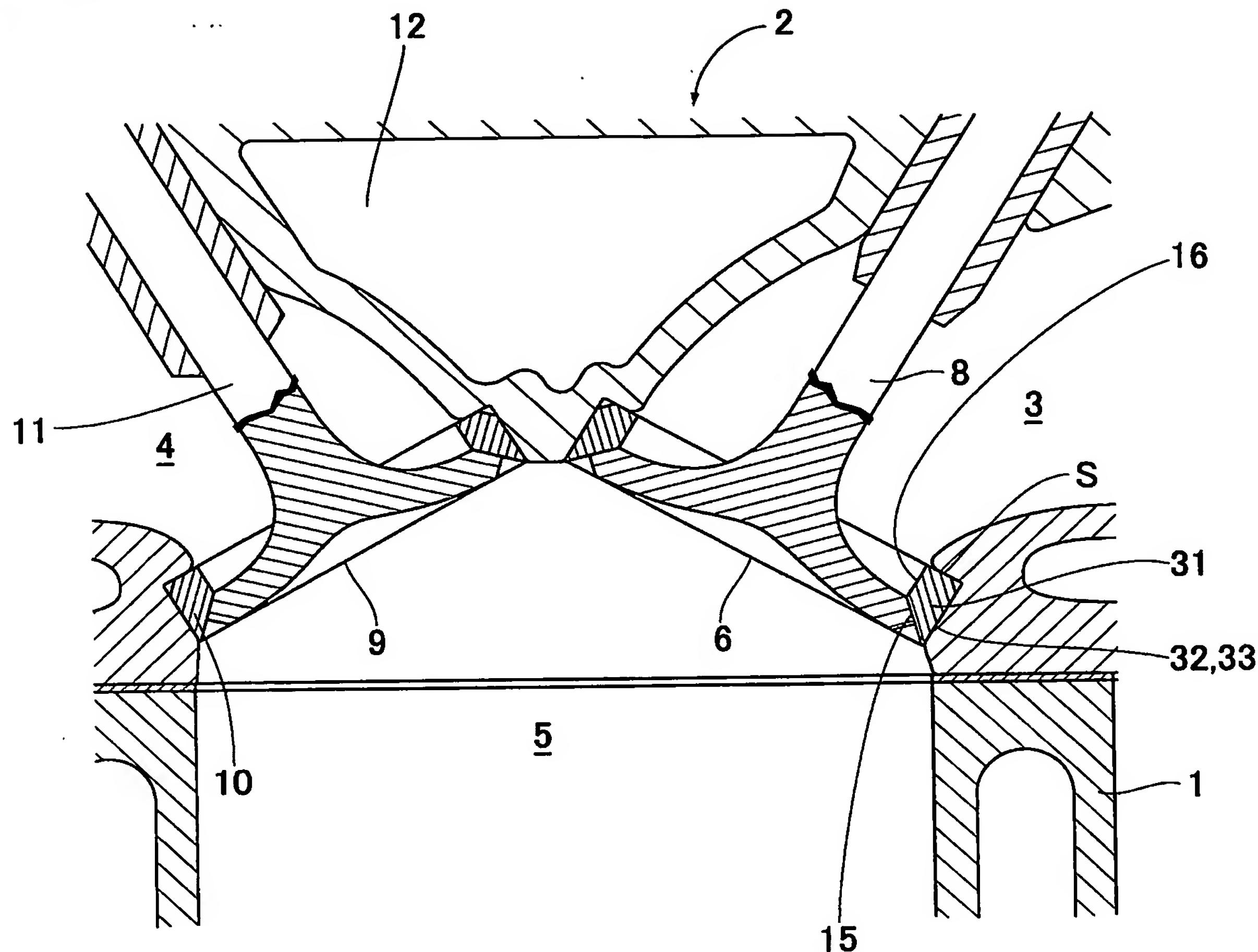
【図4】



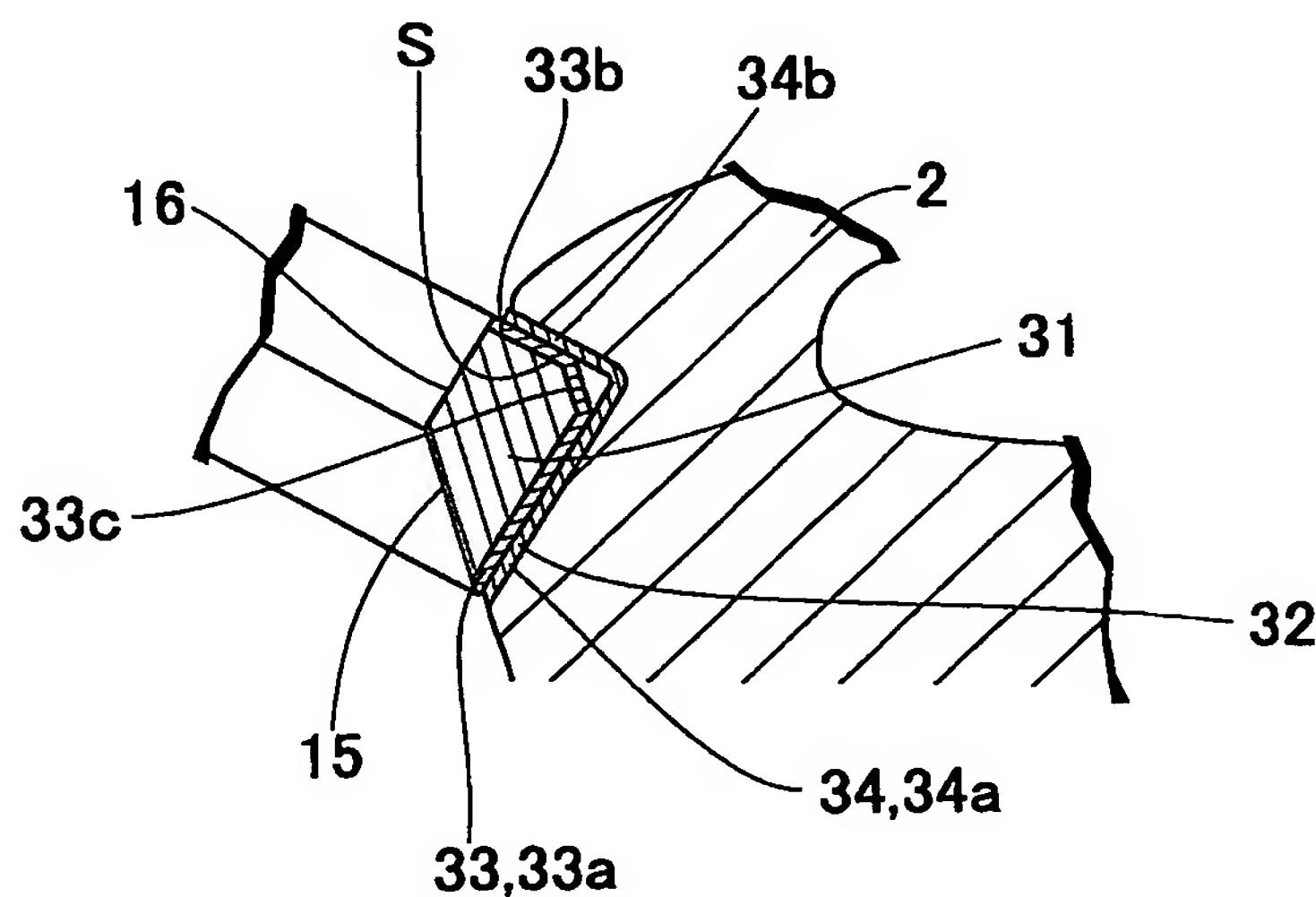
【図5】



【図6】



【図7】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 バルブシートとその組付け受け部とがガルバニ腐食を生じやすい異種金属の組み合せであっても、ガルバニ腐食を阻止できる。

【解決手段】 アルミニウム合金製シリンドヘッド2の吸気口6に設けた組付け受け部13に設けられる鉄系バルブシート本体17の表面にメッキ層14を形成する。シリンドヘッド2とバルブシート本体17との間にメッキ層14が介在するので、水を介して組付け受け部13とバルブシート本体17との異種金属の電位差を減少して、ガルバニ腐食を阻止することができる

【選択図】図1

特願 2003-341541

出願人履歴情報

識別番号 [000006264]

1. 変更年月日 1992年 4月10日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都千代田区大手町1丁目5番1号

氏 名 三菱マテリアル株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.